



(題字 小黒千足 学長)

第341号

(平成5年2月・3月合併号)



目 次

学 内 諸 報

- ◆ 平成5年度富山大学入学者個別学力検査
（前期日程・A日程）の実施 3

- ◆ 来年就職する学生向けに公務員採用試験に
関する講演会を実施 6

- 特集** 本年度定（停）年退職者が語る
「我が人生に悔いはなし」 7

人 事 異 動 14

学 事

- ◆ 平成5年度文部省在外研究員派遣者の
決定 15

- ◆ 平成5年度文部省内地研究員の決定 15

- ◆ 平成5年度国際研究集会派遣研究員の
決定 15

諸 会 議 16

お 知 ら せ

附属図書館の土曜日開館について 19

寄 稿 **海外レポート**

- ① 国際学術研究「アフリカにおける食糧
生産とその社会経済的背景に関する研
究」の開始 20

— 人文学部助教授 末原 達郎 —

- ② 「海外教育事情視察を終えて」 22

— 教育学部附属中学校教諭 永田 真理 —

学内トピックス

① 新成人職員に学長から記念品が贈呈!! 24

② 恒例の寒中水泳大会実施 25

③ '93スプリングコンサートで迫力の演奏 27

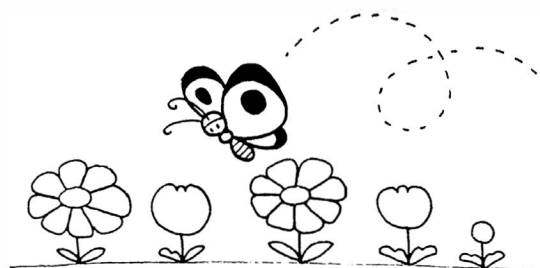
学 内 規 則 29

海 外 渡 航 者 31

職 員 消 息 31

計 報 32

主 要 行 事 33



平成5年度

富山大学入学者個別学力検査（前期日程・A日程）が実施される

平成5年度入学者選抜試験の前期日程・A日程の学力検査等が、去る2月25日(木)に実施されました。

試験当日は、雪に見舞われるあいにくの天気となりましたが、受験生たちはみな、オーバーを着込むなど温かい服装で大学の門をくぐりました。また、積雪で心配されていた各交通機関の乱れもなく、試験開始2時間前にはすでに受験生の姿が見え始め、受付の午前9時には、各学部の入口の前は受験生でいっぱいでした。

前期・A日程合わせて志願者は4,570人で、そのうち受験したのは4,297人(欠席265人)で、受験率は94.0%でした。また、私費外国人留学生も112人が受験しました。

前期日程・A日程の合格発表は、3月6日(土)午前10時に本学学生部前の特設掲示場で行われ、同時に私費外国人留学生特別選抜の合格者発表も行われました。

なお、教育学部で私費外国人留学生の合格者が出たのは初めてのことです。

また、後期日程の入学者選抜は、3月15日(月)に、教育学部小学校、養護学校及び幼稚園教員養成課程で実技検査、同学部情報教育課程と理学部化学科で小論文、また経済学部「昼間主コース」で学力検査が実施されました。



▲足場が悪い中、緊張の面持ちで試験会場へ向かう受験生



▲緊張の面持ちで試験開始の合図を待つ受験生
(理学部検査室)



▲試験終了、肩の荷をおろして帰路に向かう受験生

◎平成5年度 富山大学入学者選抜試験（前期・A日程）結果一覧

| 学部 | 区分 | 学 科 ・ 課 程 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 合格者数 | |
|----|-------------|----------------------------|---------|----------|----------|---------|---------|-----|
| 人文 | 前期 | 人 文 学 科 | 人 68 | 人 354 | 人 334 | 人 20 | 人 73 | |
| | | 語 学 文 学 科 | 72 | 415 | 398 | 17 | 76 | |
| | | 計 | 140 | 769 | 732 | 37 | 149 | |
| 教育 | 前期 | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | 70 | 191 | 182 | 9 | 75 | |
| | | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | 14 | 48 | 45 | 3 | 15 | |
| | | 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | 21 | 95 | 91 | 4 | 22 | |
| | | 情 報 教 育 課 程 | 20 | 26 | 26 | 0 | 22 | |
| | | 計 | 125 | 360 | 344 | 16 | 134 | |
| | A | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | 44 | 222 | 214 | 8 | 51 | |
| | 合 計 | 169 | 582 | 558 | 24 | 185 | | |
| 経済 | 前期 | 昼 コ 間 1 主 ス | 経 済 学 科 | 116 | 447 | 428 | 19 | 140 |
| | | 経 営 学 科 | 88 | 343 | 321 | 22 | 101 | |
| | | 経 営 法 学 科 | 71 | 484 | 456 | 28 | 88 | |
| | | 計 | 275 | 1,274 | 1,205 | 69 | 329 | |
| | 前期 | 夜 コ 間 1 主 ス | 経 済 学 科 | 2 | 12 | 12 | 0 | 4 |
| | | 経 営 学 科 | 2 | 16 | 16 | 0 | 4 | |
| | | 経 営 法 学 科 | 2 | 23 | 23 | 0 | 5 | |
| | | 計 | 6 | 51 | 51 | 0 | 13 | |
| | 合 計 | 281 | 1,325 | 1,256 | 69 | 342 | | |
| 理 | 前期 | 数 学 科 | 30 | 138 | 129 | 6 | 38 | |
| | | 物 理 学 科 | 37 | 135 | 128 | 7 | 44 | |
| | | 化 学 科 | 42 | 124 | 110 | 14 | 43 | |
| | | 生 物 学 科 | 44 | 150 | 139 | 11 | 49 | |
| | | 地 球 科 子 <small>〃</small> 科 | 27 | 106 | 101 | 5 | 28 | |
| | | 計 | 180 | 653 | 607 | 43 | 202 | |
| 工 | 前期 | 電 子 情 報 工 学 科 | 87 | 388 | 365 | 21 | 104 | |
| | | 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | 67 | 270 | 249 | 20 | 76 | |
| | | 物 質 工 学 科 | 54 | 349 | 321 | 26 | 66 | |
| | | 化 学 生 物 工 学 科 | 56 | 234 | 209 | 25 | 71 | |
| | 計 | 264 | 1,241 | 1,144 | 92 | 317 | | |
| | 合 計 | 1,034 | 4,570 | 4,297 | 265 | 1,195 | | |
| | 前 期 日 程 合 計 | 990 | 4,348 | 4,083 | 257 | 1,144 | | |

(注) 理学部化学科及び生物学科の募集人員には、それぞれ増員分を含む。

◎平成5年度 富山大学私費外国人留学生特別選抜試験結果一覽

| 学部 | 学 科 ・ 課 程 | | 志願者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 合格者数 |
|-----|----------------------------|-----------|------|------|------|------|
| | | | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 人文 | 人 文 学 科 | | 9 | 7 | 2 | 6 |
| | 語 学 文 学 科 | | 2 | 2 | 0 | 0 |
| | 計 | | 11 | 9 | 2 | 6 |
| 教育 | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | | | | | |
| | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | | 1 | 1 | 0 | 1 |
| | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | | | | | |
| | 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | | | | | |
| | 情 報 教 育 課 程 | | 1 | 1 | 0 | 1 |
| | 計 | | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 経済 | 昼 コ 間 主 ス | 経 済 学 科 | 19 | 12 | 7 | 0 |
| | | 経 営 学 科 | 48 | 30 | 18 | 4 |
| | | 経 営 法 学 科 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| | | 計 | 69 | 43 | 26 | 4 |
| 理 | 数 学 科 | | | | | |
| | 物 理 学 科 | | | | | |
| | 化 学 科 | | | | | |
| | 生 物 学 科 | | | | | |
| | 地 球 科 学 科 | | | | | |
| | 計 | | | | | |
| 工 | 電 子 情 報 工 学 科 | | 12 | 9 | 3 | 5 |
| | 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | | 13 | 7 | 5 | 5 |
| | 物 質 工 学 科 | | 4 | 2 | 2 | 0 |
| | 化 学 生 物 工 学 科 | | 1 | 1 | 0 | 1 |
| | 計 | | 30 | 19 | 11 | 11 |
| 合 計 | | | 112 | 73 | 39 | 23 |

(注) 主な出身国・地域：マレーシア11人，中国6人，台湾5人，韓国1人

来年就職する学生向けに

○ 公務員採用試験に関する講演会を開催 ○

去る2月3日(水)午後1時から、経済学部201番教室において、公務員を志望する学生を対象に「公務員採用試験に関する」講演会を開催し、延約320名の学生が聴講した。

この講演会は、就職活動の一環として、来年度に向けて就職活動にあたる三年次生を中心に開催したもので、今回で七回目を迎えた。

当日は、始めに学生部長から挨拶があり、次いで、富山県人事委員会事務局任用課長代理霜上 寛氏から「富山県職員採用試験の概要について」また、人事院中部事務局第二課専門官大鹿 茂氏から「国家公務員Ⅰ種・Ⅱ種採用試験の概要について」それぞれ講演があり、会場には、好景気が一転して最近の景気の低迷、企業の産業構造の変化など影響してか、給与や福利厚生面などで改善が計られ、将来やり甲斐のある職場と安定性の高い公務員を志向する多数の学生が聴き入り、真剣にメモをとったり、熱気溢れる活発な質疑応答が行われた。



▲ 熱心に講演に聴き入る公務員志望学生

特 集

本年度定（停）年退職者が語る!!
「我が人生に悔いはなし」

退職者を囲む懇談会で永年の労がねぎらわれる

平成 4 年度に定年（停年）により退職された方々を囲む懇談会が、去る 3 月 16 日（火）午前 11 時 50 分から黒田講堂において開催されました。

懇談会では、小黒学長から退職者一人一人に記念品が贈呈された後、永年にわたって本学に尽くされたことへの労をねぎらう挨拶がありました。これに対して、退職者を代表して、教育学部白川郁子教授が謝意を述べられました。次いで、記念撮影の後、懇親パーティに移りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ、学長をはじめ各部局長から永年の労がねぎらわれました。

なお、退職された方々は次のとおりです。

| | | |
|----------|-------|---------|
| 事務局 | 文部技官 | 植 吉 和 政 |
| 人文学部 | 文部教官 | 川 本 榮一郎 |
| 〃 | 〃 | 吉 田 清 |
| 人文学部・理学部 | 文部技官 | 田 村 与 市 |
| 〃 | 文部事務官 | 武 久美子 |

（平成 4 年 12 月 1 日退職）

| | | |
|------|-------|---------|
| 教育学部 | 文部教官 | 中 谷 唯 一 |
| 〃 | 〃 | 白 川 郁 子 |
| 〃 | 〃 | 佐々木 光 三 |
| 経済学部 | 文部事務官 | 多 村 節 子 |
| 理学部 | 文部教官 | 杉 田 吉 充 |
| 工学部 | 〃 | 松 本 幸 生 |
| 〃 | 文部事務官 | 森 慶 二 |
| 〃 | 〃 | 森 田 美喜子 |
| 教養部 | 文部教官 | 大 谷 重 彦 |
| 〃 | 〃 | 藤 井 昭 二 |
| 〃 | 〃 | 飯 森 米 藏 |
| 〃 | 文部事務官 | 高 尾 貢 |
| 〃 | 作業員長 | 浜 井 幸 作 |

以上18名





経理部 植吉 和政

私が富山大学に就職したのが、昭和37年で当時は雪がよく降りました。

朝出勤して炭火を起こして教室へ配ったり、石炭ストーブに火を入れたり色々な事をしてきました。

木造の建物や多くの人との出逢いがなつかしく思います。

月日の立つのも早いもので、31年間勤めさせて頂き、この度定年退職を迎える事になりました。

富山大学の皆様には、大変長い間御世話になり有り難うございました。

さらば我が母校



人文学部 吉田 清

土壇場にきて私は去年、今年と人文学部紀要に論文を執筆した。《矢つぎばやに》などと自慢したい所だが、実は、書かねばならぬ事情に追い込まれていたのだ。《上、中、下》と続く論文の《下》が残っていた外に、シュタードラーという詩人に関する論文の《上》を書いた直後に全集の改訂増補版が出たため、構想の建て直しを迫られて中断し、《下》を書かずにいたからだ。

どうやらこの二つを片付けて一応ほっとはしたものの、恥ずかしながら未完の論文をもう一つ抱えていて、生涯に悔いを残しそうである。

前任校で別の詩人トラークルの《研究序説》を書き終えた時点で富山大学へ移り、引き続き《本論》を書くべきであったのに、もともと移り気なのと、卒論修論とやってきたこの詩人の作品に対する魅力が薄れたせいもあって、研究対象を変えてしまったのだ。序説だけで中断するというのは収まりが悪く、学問的良心

を苛む事まことに甚だしい。今となっては自費出版するしかなくなってしまったが、果たしてこれは実現できるかどうか。

「我が人生に悔いはなし」とこのシリーズの総タイトルがうたっている。編集当局の方針に逆らう気は少しもないのだが、私の場合、後悔しているくせに未解決のままにしている問題はこの例にとどまらないので、もっと後悔を生産的に止揚すべきであったと、この期に及んでまたまた後悔している次第である。

しかし他方、後悔するどころか、あれは全く正しかったと何度反芻しても思わず会心の笑みが浮かんでくるような運命的決断の成功例も皆無ではない。

その最たるものは、理系を出て就職していたのに富山大学文学科へ入りなおしたことである。私が旧制中学でそろそろ進路を決めねばならなくなった頃は太平洋戦争の末期で、英語は敵国語であるが故に入試科目に入っていなかった。英語しか好きでなかった私が適性も能力も考えずに迷い込んでしまった世界は味気無いことこの上なく、その世界に埋もれてかけがえのない一生を捧げる気にはどうしてもなれなかった。かくして私は同期生より六つ年上の老学生として再出発しようと決心したのである。お陰で好きな語学で生きることができた。人間、好きな事で生きるのは最高の幸せである。その上幸運にも母校で教壇に立つことさえ叶って、「やっぱり我が人生に悔いはなし…かなあ。いや、正にそのとおり。悔いがあるなどと言えば罰が当たるぞ」という内なる声が聞こえてくる。

ところで、私を育て、私に22年の快適な教師生活を送らせてくれた母校は、私の学生時代に比べると瞠目すべき発展を遂げている。それにもかかわらず、この40年間、学部数に増減がないのは本当に不思議なほどである。今後は、ともに「食べるもの」の研究を専門領域にし、生きることの根幹に関わる学部といえる農学部と歯学部を新設して、より完全な総合大学を目指してほしいものである。北陸3県の国立大学が持たない学部なので、増設の可能性ありと信ずる。

定年退官に際して



人文学部 川本榮一郎

富山大学に8年間、大過なく勤めさせていただくことができましたのは、ひとえに先生方ならびに事務の方々のご懇切なご指導ご支援の賜物と深く感謝いたしております。ほんとうにありがとうございました。おかげさまで、富山県方言の臨地調査をたびたび行い、貴重な資料をたくさん得ることができました。

定年退官後は、郷里の青森県に帰り、弘前の寓居で暮すこととなります。雄大な立山連峰の素晴らしい景観とキトキトの魚に恵まれた富山を去るにあたり、これまでお世話になりました多くの方々に厚く御礼申し上げますとともに、活力に満ちた富山大学のますますのご発展を心からお祈り申し上げまして筆を擱くことといたします。

定年退官を迎えるに際して



人文学部・理学部 田村 与市

富山大学に勤務して以来30年間宮々として勤めてきた私にも、定年退官する日がやって来ました。

この時にあたって、改めて〈光陰矢の如し〉の古来の諺を思い浮べて味わっています。長い年月を大過なく勤務できましたことは本当に有り難く思っております。お世話になった多くの方々に、哀心より感謝致します、と共に、富山大学の今後一層の発展をお祈り申し上げます。

定年退職を迎えて



教育学部 中谷 唯一

昭和24年に富山大学が創設されました折、富山の文化元年であると思いました。感激いたしました。その第一期生に入学いたしまして、同28年に卒業し、即、助手として母校に勤めさせて頂きました。そして、今日まで、通算43年に及びます。蓮町にありました教養部から、空襲で焼け残った五福の連隊兵舎に移転していました教育学部（専門教育課程）へ移行しましたのが昭和25年10月、以来五福へ通学・通勤を続けました。人生の大半を通い過ごした所になります。狭くいえば五福、広くいえば、富山が故郷のようなものです。五福キャンパスへ通うようになったころ植えられた桜・松・楓、その後20年余りも経って整備されたメイン・ストリートの、ゆりのき並木など、見事な太木（たもとぎ）に成長しています。成長の速い木々にとっても、20年という歳月は、凄く大切なのだと痛感させられます。

富山大学へは、年毎に、各分野のオーソリティの教官方が集まって来て下さいましたし、優秀な学生が全国各地から進学してくるようになりました。留学生の数も急増しています。40年の重みを感じてなりません。私も、大学に入学して初めて彫刻を教わりましたが、その彫刻の研究で人生が一変しました。奥行・厚み・第三次元が同時に視れるようになりました。つまり、対象の把握に当って、三つの次元を連携させて視るという努力を一々意識化しなくても行っているようになったことです。これはいくら感謝してもしきれません。

また、41年間に、すばらしい恩師の先生方はじめ、沢山の教官・事務官の皆様、附属学校園の教官・事務官の皆様、学外の教職員の皆様、先輩の皆様から知己を頂き、同級生、同窓生、学生諸君の知友を得ました。何物にも勝る宝であります。大切にしたいと思えます。

富山大学は私どもにとりましてかけがいのない母校であり、ふるさとです。僅か40年余りという歴史かも知れませんが、波乱に満ちた激動の40年ではなかったでしょうか。大きな問題が起こる度に全学あげて、英知を絞って対処、解決してきました。歴史が浅いが故に、総てが初体験だったに違いありません。しかし、

解決の度に、大きく成長していったように思われます。それを支えたのは、大規模大学では、至難と思われる全学の総力態勢ではないでしょうか。つねに総意を結集しての対応、選択、決断であったでしょう。従って、その的確さ、適切さは、高く評価されていくことと思えます。

懐しい教養部の改組、自己点検評価、大学院問題、児童数減少、景気の停滞又は後退にからむ求人難、就職難など諸問題が自発・他発しています。改憲論も無気味です。しかしそうした諸々の問題の中には、当局から言われるまでもなく主体的な事柄もあります。将来の命運をかけた問題もあります。とはいえ、見事にクリアしてきた富山大学の過去40余年の実績があります。富山大学の英知や見識、さらには、夢や哲学がある筈です。これからも、全教職員の皆さまの変わりないご英断、ご善処をお願いしてやみません。卒業生にとって母校は総てなのです。ふるさとなのです。ふるさとを失う悲哀は見たくありません。限りない発展を祈願するのは、卒業生のひとりひとりの永遠なる思いなのです。心からお願い申し上げます。私は4月から、富山大学で、40余年かけて鍛えて頂きました多次元視野を活かし、無定年の「第二の青春」を生き抜こうと考えています。一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。まことに有り難うございました。

走りに走って ひたむきに



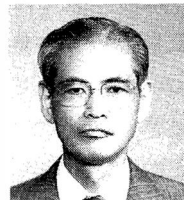
教育学部 白川 郁子

学術の森（富山新聞S63）より。「富山大学には女の教授が三人いる。白川教授はその一人である。20年余中高校で教師を務めて43年富山大へ。創作舞踊を創造性教育の一環として定着させた。国際的に著名な創作舞踊家・邦 正美氏（米・フラトン大学名誉教授・同大前舞踊学部長・哲学博士）に感銘を受け、教育舞踊研究の道へ。学生の発表指導はもちろん、自らも演じ『創作する舞踊は人間の芸術、いくつになろうとそれなりの方法で表現できる』と熱っぽく語る」

本来人間は表現体なのである。教育とか芸術の方法論は実際の行動を通してしか発見できない。公演・試演会・教育舞踊実験劇場と称する発表会等を行ってき気がついたらそこに停年退官の日があった。道なき道の先達を務めてやりがいのある25年間であった。

大学へ赴任したときは大学紛争のはじまり、25年の年月を経て退官の今日は大学大変革の渦の中にある。急激におこる改革は随所にひずみを伴う、「よき理論ほど実際的なものである」という格言が想起されるが、台風後の行く末を案じつつ富大の発展を祈る。

センターの窓から



教育学部 佐々木光三

- ① 本当に終わってみなくては分かりませんが、「我が人生」の三分の二に及ぶ教職の場を離れるので、一応はほっとするでしょう。しかし、これまでを振り返り、また教育の在り方には時代に即した新しい解決が求められ続けることを考えると、少なくとも当分は教育への関心を持ち続けることになるのだらうと思えます。40年のキャリアの最後に、6年半も大学の実践センターで過ごし得たしあわせに感謝しています。
- ② 改組の結果、4年一貫教育が研究と教育の新しいバランスに貢献するものと信じ、成功を衷心から念願しています。あえて希望をといえば、学内における教育学部の特性、教員養成が大学の学部で行われる所以を全学の諸賢が十分に認識され、改革及び制度整備に際して相応の配慮と協力をお願いしたい。新生富山大学のユニークさの少なくとも一端が、やがてこの点においても発揮されることになるからです。

結晶の完全さを追って



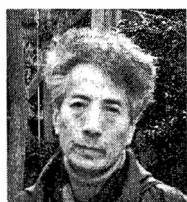
理学部 杉田 吉充

全く思いもかけない縁で富山へ来て、私の研究生生活の3分の1に当たる期間を自由闊達な雰囲気の中で過ごすことができ、大変幸運だったと思います。結晶がどの程度完全なものであるかを測定する方法を飯田敏先生や学生達と共に研究し、ペンデル縞法を発展させることができたことは忘れ難い思い出として残ることでしょう。

私が蒙昧であったためか、或いは定年間近であったためか、寄与することは少なかったのですが、教育改革は急速に進んで、新しい時代の夜明けを感じます。多くの教職員の方々の並々ならぬ努力に敬意を表します。この際、私は新進気鋭の若人にバトンタッチして、老兵は去るのみといった心境です。

長い間お世話になりました。心から感謝いたします。

富山と私



工学部 松本 幸生

富山での8年間の生活が終ろうとしているのですがなかなか離れ難い気分させられるものの一つにメタセコイアがあるのです。以前から何故か「街路樹」に興味があり、訪れた町のあちこちを歩いて木々の姿を眺めることも仕事の一つになったのですが、富山の場合、他では見られない程の高さでありながらそれでいて繊細な感じのメタセコイアが一度で気に入ってしまいました。それは何故、と調べた資料に別名「水杉」と記されていてその謎が一気に解けたように思います。四季を通して絶えることのない立山連峰の伏流水がこの豊かでさりげない美しさを育てているのでしょう。

いま学報の号外「富山大学における教育改革について」が届いた折、これまでにまとめられた皆様のご苦

労とこれを実行される皆様のご苦労が痛い程伝わって来るのですが、富山大学でしか生み出すことのできない豊かな成果とそれに素敵なお出合いがここにはきっとある、と固く信じているのです。

定年退職にあたって



工学部 森 慶二

工学研究科博士課程の設置準備、大学教育改革、自己点検評価、社会との連携推進イベント、建物新営…目まぐるしく、平成4年度が過ぎ去ろうとしています。

新制大学として発足もない昭和26年9月当時奥田にあった会計課に採用され、以来大学の充実発展を面の当たりにし、いささかなりとも寄与できたことに自負心を覚えつつも、今はほっとする気持と寂しいものがあります。

42年余の間に、経理部、学生部、文理学部、経済学部、工学部、附属図書館（配置の順が異なりますが）に勤務し、その時その時大変な思いをしながらやってきた仕事も今となれば楽しい思いでになります。とりわけ工学部の敷地買収のため土地の古老と夜を徹して話し合ったことが懐かしく思い起こされます。

学制改革で旧制中学から新制高校に移籍卒業後、発足もない大学に就職し、退職する年に大学における最大の改革（規模及び内容において）が行われ、何か歴史的なものを感じております。

最後になりましたが、よき先輩、よき同僚に回り合えたことを感謝しております。

行政職の一員としての日々



工学部 森田美喜子

かつて大学紛争の混乱が続く職場で「教育職でない我々事務は、行政職としての誇りをもってその責任を果そうではないか。」と呼びかけた人がおりました。それから、数ならぬ未熟な自分なりにその自覚のもと富大職員としての誇りを秘に持って、心して今日に至ったように思います。

また忘れ難い風景として、去る年、キャンパスに桜が一斉に咲き競い、やがて風に誘われて、舞台のフィナーレさながら花吹雪・花渦となってとめどなく散り敷いた様が目に焼き付いております。

この間、数多くの出会いの中で頂いたご指導をこれからの財産として、人情の厚さと友情の確かさを胸にだきとめ、富大を去ります。有り難うございました。

四季折々に美しいこのキャンパスで、各々の仕事に誇りと働きがいを持つ人の和により、富大が益々発展されんことを。

退くに際して



教養部 大谷 重彦

昭和30年文理学部非常勤講師に採用されドイツ語を教えて以来、38年が経ちました。今までの人生の半分を何とか過せたのは、大度ある富山大学のお蔭と感銘を新たにしております。この間、公私共にお世話になりました皆様にはお礼の言葉もありません。4月から暫くは非常勤講師としてお手伝いさせて頂くことになりますので、又お目にかかる機会もあるかと存じます。非常勤に始まり非常勤に終わることに何か秘かな満足を感じております。

本学の前途はなお多難であろうと愚考します。教養部廃止を伴う教育改革はまだその緒についたばかりで

あります。各学部の皆様には、更に大膽に学部の改廃統合をも含む全学的再生をお考え下さいますよう、最後の教養部長としてお願い致しまして、お別れ致します。

開始寸前



教養部 飯森 米蔵

富山大学教養部在職21年、前任校の新潟大学21年と合わせて42年の大学での生活が終わる。その間毎年、新入生を迎えて、ドイツ語教師として、アーベツェーから始まった4月。しかし、この4月からは……今までとはちがった新しい日々が始まる。「昼と夜こもごもありて夜昼となくつもりたる雪解けはじむ」、これは私の今年の新年賀歌、別に定年を意識しての作ではないが、私の心情をおのずから反映しているであろう。そして、雪が解ければ、「雪の下に土を見いだす希望」(ハインツ・ピオンテク『雪の下の土』)がある。何かをなす力がまだある限り、何でも始めることができる。退官を目前にした今、一つのことを全うして終わるというよりは、私にとって開始寸前なのである。

大学改革、大学の新体制を目指して、全学の転換、充実を図ろうとしている富山大学もまさに開始寸前。しかし私は、旧人は去るべし。もはや語ることなく、ただ願い、見守るばかりである。いずれにせよ、すべてはこの4月からである。

大学の自治と富山大学の発展を



教養部 藤井 昭二

1954年から39年間好きなことをさせて戴いたことを感謝します。私は自分の意志で勝手な事ができたと思っておりましたが、孫悟空がお釈迦さんの手の平で暴れ

ていたのと同称、大学の自治の中での行動でした。

大学の庇護がなくなった時、何ができるのか正念場でしょう。先輩の努力で獲得された大学の自治。世の中で大学の様な機関のあることは有り難いことで、自治の伝統を守るのはもちろん。伝統を発展さすよう頑張ってください。

1968・69年の大学紛争は何だったのでしょうか。多くの若者が傷ついて学園を去っていきました。

教養部が廃止になり、一般教育が全学の責任で行なわれることになりました。一般教育が風化しないよう運営されることを希望します。

今度の改革で修士課程の講座がずらりと並びました。博士課程の講座が並ぶ日も遠くないでしょう。その日の一日も早いことを楽しみにしています。

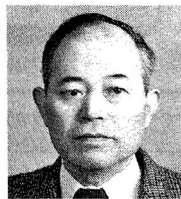
定年退職を迎えて



教養部 高尾 貢

研究、学問の場で、エネルギー溢れる先生方・学生達と共に毎日を過ごせるという恵まれた雰囲気職場に勤めることができ、この度、無事に定年退職を迎えられる事は、本当に幸せであったと思っています。思いおこせば、昭和42年富山大学教養部が発足時に勤務を始め、偶然にもその廃止時に定年退職を迎える事になりました。その間学園紛争の波が当大学にも押し寄せ、旧附属学校校舎で執務をしたこともありました。当時は大学の機能が失われた当時の毎日が混乱の日々を送ったことは、今でも胸の痛む思いで思い出します。富山大学を去って行く私ですが、今日迄力不足の私を優しく支えて下さった皆様方に深く感謝の念一杯です。有り難うございました。この四月からは時代の流に即応した新しい富山大学が発射します。益々の御躍進をお祈りいたします。

停年退職を迎えるにあたって



教養部 浜井 幸作

昭和42年、富山大学教養部が発足し、私は採用されました。今日富山大学発足以来の最大の教育改革により教養部が廃止されます。私にとっては教養部の誕生より、引退まで全てを見ることになりました。顧みますと、一番心に残る出来事と思えるのはやはり昭和43年頃の、富山大学が学生運動の嵐のまっただ中にあった時のことです。毎日が戦場みたいなものでした。現在の富山大学は平和そのものです。この状態がいつまでも続くことを祈っております。

また、私の業務内容は、教養部の環境整備が主であります。2年前より、構内環境美化運動として0の付く日に全学の作業員が一体となって合同作業をする事になりました。休けい時間にはお互いの知識等の意見交換ができました。その結果、樹木の雪吊り等の環境美化については、誰にみられても恥かしくないでさええになったと思います。

教育改革と同様、業務改革といえると思います。

最後になりますが今日、私が円満な停年退職を迎えられることは、一重に、皆様方の暖かいご厚情並びにご指導のたまものと深く感謝しております。

皆様方のご健康とそれに伴いますご活躍により富山大学が益々発展するよう心からお祈り申し上げます。



人 事 異 動

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 |
|------|----------|-------|----------------|-----------------|
| 昇 任 | 5. 3. 1 | 内藤 亮一 | 講 師 (教育学部) | 助教授 (教育学部) |
| | " | 市川 文彦 | " (") | " (") |
| | " | 野口 宗憲 | " (理学部) | " (理学部) |
| | " | 阿部 幸隆 | 助 手 (") | " (") |
| | " | 横畑 泰志 | 講 師 (教養部) | " (教養部) |
| | " | 宮内 伸子 | " (") | " (") |
| | " | 早川英治郎 | " (") | " (") |
| 退 職 | 5. 2. 20 | 柴田 紀子 | 事務補佐員 (附属図書館) | 平成5年2月19日限り退職した |
| | " | 堀井 雅恵 | " (") | " |
| | 5. 2. 24 | 林 敏和 | " (") | 平成5年2月23日限り退職した |
| | " | 中村 繁之 | " (") | " |
| | " | 高越 義一 | " (") | " |
| | " | 杉森真希子 | " (") | " |
| | 5. 2. 27 | 多胡 久 | 技術補佐員 (経理部主計課) | 平成5年2月26日限り退職した |
| | " | 西野 英克 | " (") | " |
| | " | 山本憲一郎 | " (") | " |
| | " | 浅井 康広 | " (") | " |

学

事

平成5年度 文部省在外研究員派遣者の決定

| 種 類 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名 | 調 査 研 究 題 目 | 派 遣 期 間 |
|-------|------|-----|-------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|
| 長期(甲) | 理学部 | 教授 | 東川 和夫 | アンアーバー (アメリカ合衆国) ミシガン大学 | 不変計量による複素解析 | 5. 10. 1 } 6. 7. 31 |
| | 経済学部 | 教授 | 佐藤 良一 | アムハースト (アメリカ合衆国) マサチューセッツ大学 | 経済動学理論の研究 | 5. 8. 25 } 6. 6. 24 |
| 短 期 | 教養部 | 教授 | 森田 弘之 | レキシントン (アメリカ合衆国) ケンタッキー大学 | 生理活性化合物の合成的研究 | 5. 7. 1 } 5. 8. 31 |
| | 工学部 | 教授 | 西塚 典生 | デルフト (オランダ) デルフト工科大学 | 通信用変成器, パルス変成器, 分布定数回路に関する調査研究 | 5. 7. 15 } 5. 9. 14 |
| 若手教官 | 工学部 | 助手 | 佐山三千雄 | ボルチモア (アメリカ合衆国) メリーランド州立大学 | C-fps/fes プロトオンコジーン に関する研究 | 5. 8. 25 } 6. 6. 24 |

平成5年度 文部省内地研究員の決定

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 受 入 機 関 | 研 究 題 目 | 研 究 期 間 |
|-----|-----|---------|---------|---------------|--------------------------|
| 教養部 | 教授 | 大 薮 龍 介 | 九 州 大 学 | 自由民主主義理論の研究 | 5. 9. 1 } 6. 2. 28 |
| 工学部 | 助手 | 米 山 嘉 治 | 大 阪 大 学 | 石炭の化学構造に関する研究 | 5. 5. 6 } 6. 3. 4 |

平成5年度 国際研究集会派遣研究員の決定

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 研 究 集 会 名 | 開 催 期 間 | 開 催 地 |
|-----|-----|---------|-------------------|---------------------------|--------------|
| 工学部 | 講 師 | 平 澤 良 男 | 第4回低温域熱工学国際シンポジウム | 5. 9. 28 } 5. 10. 1 | オタワ (カナダ) |



平成4年度第6回事務組織等検討委員会（1月6日）

（議 題）

- (1) 大学教育改善に係る事務組織等について
- (2) その他

(1) 教育改革に伴う施設整備計画について

(2) その他

平成4年度第3回国際交流委員会（1月14日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学国際交流事業基金各種事業募集要項（案）について
- (2) 富山大学留学生指導相談室規則（案）について
- (3) 富山大学国際交流委員会規則等の一部改正について
- (4) マレーシア国マレーシア工科大学との学术交流協定について

平成4年度第7回補導協議会（1月21日）

（審議事項）

- (1) 学生証について
- (2) 学生会館規則の一部改正について
- (3) その他

平成4年度第4回授業料等減免選考委員会（1月21日）

（議 題）

- (1) 授業料等減免選考委員会規則の一部改正について
- (2) その他

平成4年度第3回教育改革整備委員会（1月18日）

（議 題）

- (1) 各専門委員会の進捗状況について
- (2) 4年一貫教育に伴う教育目標の策定について
- (3) 富山大学学則の一部改正について
- (4) その他

平成4年度第6回入学試験実施委員会（1月21日）

（審議事項）

- (1) 専門委員会委員について
- (2) 平成5年度富山大学入学者選抜学力検査実施要項（案）等について
- (3) 平成5年度富山大学入学者選抜学力検査試験場の実施体制について
- (4) 平成5年度富山大学入学試験業務予定について

平成4年度第10回事務協議会（1月19日）

（議 題）

- (1) 平成5年度予算政府原案の内示概要について
- (2) 大学教育改善に係る事務組織について
- (3) その他

平成4年度第6回入学試験委員会（1月21日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学入学者選抜学力検査実施要項（案）等について
- (2) 合格発表時における高等学校名の公表について

平成4年度第8回新教育課程実施委員会（1月19日）

（議 題）

- (1) 新教育課程の編成について
- (2) その他

平成4年度第12回評議会（1月22日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学則の一部改正について
- (2) 4年一貫教育に伴う富山大学の教育目標について
- (3) 富山大学留学生指導相談室規則の一部改正について
- (4) 学术交流協定の締結について
- (5) 教育学部中学校教員養成課程の第2次試験実施方式の変更について

平成4年度第3回学寮補導委員会（1月19日）

（審議事項）

- (1) 学寮補導委員会規則改正（案）について
- (2) その他

平成4年度第2回施設整備委員会（1月20日）

（議 題）

- (6) その他
- 平成4年度第6回情報処理センター運営委員会(1月26日)
(審議事項)
- (1) 富山大学情報処理センター規則の一部改正について
 - (2) その他
- 平成4年度第5回放射性同位元素総合実験室運営委員会(1月28日)
(議 題)
- (1) 平成5年度一般設備費要求書の提出について
 - (2) 放射性同位元素総合実験室放射線障害予防規則の改正について
 - (3) その他
- 平成4年度第3回保健管理センター運営委員会(1月28日)
(審議事項)
- (1) 富山大学保健管理センター規則の一部改正について
 - (2) その他
- 平成4年度第7回附属図書館商議会(1月28日)
(審議事項)
- (1) 図書購入費の追加予算について
 - (2) 図書館の土曜日開館について
 - (3) 附属図書館商議会規則等の一部改正について
 - (4) 専用電子計算機の更新について
 - (5) 光ファイリングシステムの要求について
 - (6) その他
- 平成4年度第13回評議会(臨時)(1月29日)
(議 題)
- (1) 当面の諸問題について
 - (2) その他
- 平成4年度第14回評議会(臨時)(2月1日)
(議 題)
- (1) 現状について
 - (2) その他
- 平成4年度第8回補導協議会(2月1日)
- (審議事項)
- (1) 学生証について
 - (2) 合格者名簿貸出しについての申入れ書について
- 平成4年度第3回教務委員会(2月2日)
(審議事項)
- (1) 平成5年度非常勤講師の任用計画について
 - (2) 富山大学教務委員会規則の改正について
 - (3) その他
- 平成4年度第9回新教育課程実施委員会(2月2日)
(議 題)
- (1) 新教育課程の編成について
 - (2) その他
- 平成4年度第7回入学試験実施委員会(2月4日)
(審議事項)
- (1) 専門委員会委員について
 - (2) 平成5年度富山大学入学者選抜試験の検査場について
- 平成4年度第7回入学試験委員会(2月4日)
(審議事項)
- (1) 平成5年度富山大学入学者選抜試験の検査場について
 - (2) 合格発表時における高等学校名の公表について
- 平成4年度第4回教育改革整備委員会(2月5日)
(議 題)
- (1) 各専門委員会の進捗状況について
 - (2) 教務委員会規則等基幹的規定の制定・改廃について
 - (3) 学生への広報について
 - (4) その他
- 平成4年度第4回公開講座委員会(2月5日)
(議 題)
- (1) 平成5年度公開講座の実施計画について
 - (2) その他
- 平成4年度第9回補導協議会(2月9日)
(審議事項)

- (1) 学生5団体からの要求書について
- (2) その他

平成4年度第15回評議会（2月12日）

（審議事項）

- (1) 富山大学大学院学則の一部改正について
- (2) 富山大学学則の一部改正について（継続）
- (3) 4年一貫教育に伴う富山大学の教育目標について（継続）
- (4) 教養部教官の移行時期等について
- (5) 教官の休職について
- (6) 補導協議会からの要請について
- (7) その他

平成4年度第5回大学院委員会（2月12日）

（審議事項）

- (1) 富山大学大学院学則の一部改正について
- (2) 平成5年度富山大学大学院人文科学研究科（修士課程）入学試験合格者の判定について
- (3) 平成5年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）第2次入学試験合格者の判定について
- (4) その他

平成4年度第3回低温液化室運営委員会（2月12日）

（議 題）

- (1) 平成5年度一般設備費の要求について
- (2) 低温液化室運営委員会規則の改正（案）について
- (3) 次期室長の選出について
- (4) その他

平成4年度第5回教育改革整備委員会（2月19日）

（議 題）

- (1) 各専門委員会の進捗状況について
- (2) 教養教育委員会等の制定について
- (3) その他

平成4年度第5回公開講座委員会（2月19日）

（議 題）

- (1) 平成5年度公開講座の実施計画について
- (2) その他

教務委員会及び補導協議会の合同委員会（2月22日）
（審議事項）

- (1) 富山大学学生部長選考基準に基づく次期学生部長候補適任者の選定について

平成4年度第8回附属図書館商議会（2月23日）

（審議事項）

- (1) 土曜日開館に伴う書庫の利用について
- (2) 平成6年度概算要求について
- (3) 附属図書館利用規則及び同利用内規の一部改正について
- (4) 附属図書館オンライン情報検索利用内規の制定について
- (5) 附属図書館自己点検評価委員会の一部改正について
- (6) その他

平成4年度第16回評議会（臨時）（2月26日）

（審議事項）

- (1) 富山大学教養教育委員会規則及び同委員会内規の制定について
- (2) 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の制定について
- (3) 富山大学人文学部規則の一部改正について
- (4) 富山大学教育学部規則の一部改正について
- (5) 富山大学理学部規則の一部改正について
- (6) 富山大学教養部規則の廃止について
- (7) 富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について
- (8) 富山大学補導協議会規則の一部改正について
- (9) 富山大学学部補導委員会規則の一部改正について
- (10) 富山大学授業料等減免選考委員会規則の一部改正について
- (11) 富山大学学寮規則の一部改正について
- (12) 富山大学学寮補導委員会規則の一部改正について
- (13) 富山大学文化部会規則の廃止について
- (14) 富山大学体育部会規則の廃止について
- (15) 富山大学学生守則の一部改正について
- (16) 富山大学学生会館規則の一部改正について
- (17) 富山大学学生会館運営委員会規則の廃止について

- (18) 富山大学学生会館運営学生委員会規程の廃止について
 (19) 再入学について
 (20) 学生の除籍について
 (21) 教養部教官の移行時期等について（継続）
 (22) その他

- (3) 学生の教室使用基準について
 (4) 日本育英会奨学生の推薦基準について
 (5) 第38回大学祭について
 (6) その他

平成4年度第10回補導協議会（2月26日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度入学生行事日程について
 (2) 学生5団体からの要求書について

平成4年度第1回留学生指導相談室運営委員会

（2月26日）

（議 題）

- (1) 富山大学留学生指導相談室長候補者の推薦について



○ 附属図書館の土曜日開館について

平成4年5月から、土曜日を閉館としていましたが、附属図書館では、土曜日開館を下記のとおり実施しますので、ご利用下さい。

記

1. 実施期日

平成5年度から年間を通じて実施しますが、春季・夏季・冬季等の学生休業期間中の土曜日は休館します。

2. 開館場所

附属図書館本館，工学専門図書室

3. 開館時間

附属図書館本館，工学専門図書室とも，12時30分から16時15分まで

4. 利用範囲

開架図書の閲覧・貸出，書庫内図書の閲覧（職員のみ），返却，検索

奇 稿

海外レポート①

国際学術研究「アフリカにおける食糧生産とその社会経済的背景に関する研究」の開始

人文学部助教授 末原 達郎

1992年度から、文部省科学研究費国際学術研究（学術調査）の補助金を得て、「アフリカにおける食糧生産とその社会経済的背景に関する研究」の研究プロジェクトが始まった。現在のところ研究メンバーは5名で、内4名は国内の研究者、他の1名はタンザニアのソコイネ大学の教授である。本年（1993年）からは、人文学部の赤阪賢教授に加わっていただくことになり、いよいよ本格的な研究調査体制ができあがることになる。研究計画では、1992年、1993年、1994年の3年間にわたり、それぞれ3名ないし4名の研究者をアフリカに派遣し、アフリカの食糧生産の現状と問題点、その改良可能性等を探ることとなる。

この研究プロジェクトの特色は、アフリカの食糧生産を農耕技術としての側面と、社会構造、経済構造としての側面の両方から分析しようとするところにある。アフリカ諸国は、独立以降しばしば飢餓や食糧不足にみまわれてきた。この傾向は1990年代に入ってもおさまらず、むしろ増加する傾向にある。飢餓や食糧不足は、その時々マスコミの話題となり、多くの人々の関心を集めてきたが、常に一時的関心しか呼ばず、長期的な学問的研究からは取り残される傾向にあった。ひとつには、こうした問題は、飢餓や食糧不足を、自然環境や政治経済的異変に由来する、突発的で一時的な問題だととらえる、とらえ方そのものにも原因があったように思える。

この研究では、飢餓や食糧不足を短期的で突発的なものとはとらえない。そうではなくて、アフリカの自給的農業がもっている食糧生産構造上の問題としてとらえ、したがって、長期的で改良可能な問題としてとらえている。たとえば、この研究で、「飢餓」という言葉を用いることよりは、「食糧不足」という言葉を用いるようにしているのは、「飢餓」という言葉その

ものが、短期的で突発的な危機状況そのものを意味することになりがちだからである。「飢餓」であれば、一時的な食糧援助をして、さしあたって「餓死者」がでなければ、問題は解決されたかのように、みなされかねない。ところが実際には、「飢餓」や「餓死者」が一時的にいなくなったとしても、食糧不足は依然として続いているのであり、ちょっとした天候の異変があれば、それがただちに顕在化してくることになる。問題は、突発的は「飢餓」ではなく「食糧生産構造」そのものにあり、「食糧不足」を繰り返すうみだす社会的、経済的、技術的構造なのである。

食糧生産構造を問題とした場合には、大きな枠組みからの視点と、実態に即した小さな地域からの視点の両方が必要となる。政治学的、経済学的分析は、どうしても前者の視点に偏りがちだし、分析の中心もナショナル・レベル、もしくはインターナショナル・レベルでの分析におかれる。こうした分析は、アフリカの食糧生産が大規模な世界システムとの関連の中で起きていることを示し、また一国の政治経済状況の変動の中で起きてきていることを示すが、具体的な地域社会がどのように食糧不足に対応し、どのように存続し続けてきているのかということについては、不明のままである。

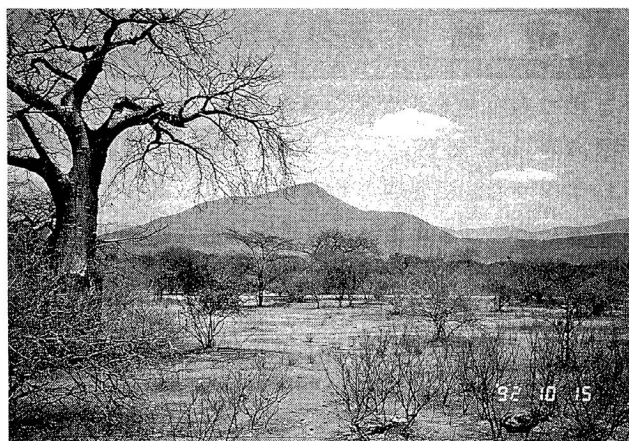
いっぽう、文化人類学の視点は、どうしても後者の視点に偏りがちになる。分析の中心もリージョナル・レベル、コミュニティ・レベルの分析におかれる。食糧生産がどのように行われ、食糧不足がどのように起こるのか、どのような家族が餓死に直面し、どのようにしてそれを克服しようとしているのか、具体的な問題発生メカニズムを探求することができる。ただそのいっぽうで、対象社会を外界から切り離れた存在としてとらえがちになる。しかし現代では、いかなる社

会も、「孤立した社会」として取り扱うことは不可能である。多かれすくなかれ、あらゆる社会は、より大きな世界と結びついており、その影響を受けている。特に、食糧生産構造に関しては、世界経済の直接的影響を受けているといえるだろう。しかし、コミュニティ・レベルからの視点だけでは、こうした世界経済との結びつきはなかなか見えてこない。

この研究はこうしたふたつの視点を、いかに組み合わせさせていくかというところに力点がおかれている。研究チームのメンバーは、いずれも経済学者であり、農学者であり、文化人類学者であるわけだが、それぞれの個別の研究成果を統合するのではなく、各研究者がふたつの視点を内在化して、調査を行うことにしている。したがって、たとえ経済学者であれ、コミュニティ・レベルでの調査地域を設定し、そこに住み込んで調査を行うことになっている。

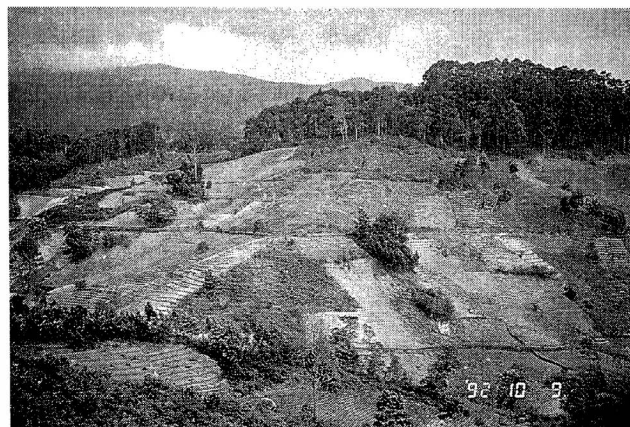
さて、この研究計画で当初予定していた調査対象国は、赤道アフリカの国々の中でも、東アフリカのタンザニア共和国と中央アフリカのザイル共和国の2カ国であった。ところが、1991年秋、現モブツ政権に対して大規模な暴動が起きた。数百人規模で死者と負傷者が出た。在留邦人も全員がザイル河をわたって、隣国コンゴ人民共和国に避難した。以来、ザイルの国情は不安定で、内紛が続いている。研究の方も、国が安定するまでは、しばらくの間中断せざるをえなくなった。私自身にとっては、1978年以来すでに8回の海外学術調査をザイルで行ってきている。できれば、継続したいところだが、背に腹はかえられず、本年度(1992年度)は研究対象をタンザニア一国にしばらくざるをえなかった。また、1993年度からは、ザイル研究が再開できるまでの間、西アフリカのマリ共和国を研究対象に加え、タンザニアとの比較研究を押し進める予定でいる。

東アフリカのタンザニア共和国は、国土の大半を乾燥したサバンナ地帯が占める。行政上の中心地は、インド洋に面したダル＝エス＝サラームにある。そこから、内陸部の調査地に向かって、見わたすかぎりの地平線を四輪駆動車でつっきることになる。タンザニアの9月10月は乾期の真っ最中にあたる。木々は緑の葉を落し、草原は褐色に染まっている。マサイの一群が砂煙をあげながら、牛の大群を連れて荒野を横切っていく。長年、ザイルの湿った森林地帯で調査を行ってきた私にとっては、まるで異質の世界だ。



▲乾期のサバンナの景観

やがて、内陸部の交易都市モロゴロにつく。ここで、旅装を整え、さらに内陸部の調査地に向かう。今回は予備調査を兼ねているので、3カ所の調査地を訪れた。1カ所は、ウグル高地にあるムプアプア。ここには、農耕民カグルが住む。この地域は乾燥していて、農耕の可能限界地域にあたる。それでもバオバブの林の中の草地を開いて、焼畑の準備がしてあった。次に訪れたのは、ウグル山脈の中に住む農耕民ルグル。高度2000メートルを越える山の中に、森林を伐採して、集約度の高い野菜畑を作っていた。最後に訪れたのは、南の高原地帯ウヘヘに住む農耕民ヘヘ。高原の上に大規模なトゥモロコシ畑が広がっており、この地帯はタンザニアの穀倉地帯のひとつとなっている。3つの地域の予備調査を終えてダル＝エス＝サラームにたどり着いた10月末、例年なら降り出す雨の便りが、まだ南の地域からは伝わってこなかった。それどころか、タンザニアの南に隣接するザンビアからは、雨不足と飢饉の始まりを伝えるニュースがながれてきていた。



▲ウグル山中に作られた農耕民ルグルの野菜畑

奇 稿

海外レポート②

海外教育事情視察を終えて

教育学部附属中学校教諭 永田 眞理

このたび文部省海外教育事情視察団の一員として25日間の海外研修旅行に参加し、去る11月23日全日程を無事終えて帰りました。訪問国はイタリア、ベルギー、ルクセンブルグ、フランス、アメリカの5カ国で、特にイタリア、ルクセンブルグ、アメリカでは、教育委員会や学校を訪問し、お互いの国の教育制度や教育方針について意見を交換したり、施設を見学したり、授業を参観し直接子どもたちに接したりするなど、貴重な体験をすることができました。このような機会を与えて下さいました諸先生方に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

今回の視察で私たちが触れることのできた教育制度は、他の国々のほんの一部でしかありませんが、それぞれの国の生活習慣や国情にあった教育制度、教育内容、教育方法に触れ、あらためて日本の教育を見直し、自分を振り返ることができました。

以下、学校訪問した際に印象に残ったことをいくつか触れさせていただきます。

〈イタリア ナポリ市〉

二重、三重の路上駐車、あちこちで鳴り響く車のクラクション、所構わず横断する人々。遺跡の街ローマとは違って変わった喧騒の街ナポリをポリスマンのエスコートつきで学校訪問を行いました。

・SERRA工業商業専門学校 学校内に入ると青地に12個の星を輪に描いたECのポスターが目に入る。イタリアでは、目前に迫る欧州統一に向けて、語学教育が教育課題の一つになっている。このSERRA工業商業専門学校においても、近年は英語教育に力を入れ、欧州統一に備えている。代表生徒による学校紹介は英語で行われ、私たちの案内にあたった生徒も立派な英語で説明してくれた。

欧州統一に向けての教育は、「統一に対するプロジェクト」という学習内容にもあらわれている。このプロジェクトでは、教師の指導のもとに、経済、科学、旅行などの様々な分野について生徒が自主的に研究している。テーマの中には、「社会的、物理的な環境の変

化の中でどのような機構をつくり出していくか。」、 「国際関係の広がりの中で責任感と開かれた精神を獲得するための方策」など、かなり高度なものも含まれていた。「今後は、イタリア人としての教育からヨーロッパの一員としての教育が必要である。」と話して下さった校長先生の言葉に、「世界は動いている」ことを実感した。

訪問したどの学校も1クラスの生徒は13~16名ぐらいで、個を生かせる体制になっていることを羨ましく思った。しかし、イタリアでは今後の方向として、個を大切にしながらも、集団学習指導の効果的な指導法の研究が大きな課題であるとのこと。日本の従来の教育のよさも再認識させられた話だった。

〈ルクセンブルグ ルクセンブルグ市〉

灰色のスレートの屋根、ベージュ色の壁の家々、窓辺には花が飾られ、色彩的に大変美しい、静かな落ち着いた街、ルクセンブルグ。

ルクセンブルグはEC加盟国の中で最小でありながら、最も富める国として欧州の経済をしっかりと握っている。そして、そのための優秀な人材育成のため、「教育こそ国造りの基本」として、教育には特に力が入れている。特に、言語においては、フランス語、ドイツ語、ルクセンブルグ語を公用語とする複雑な言語体系をもつため、義務教育の初期の段階から複数の言語教育が行われている。また、教育制度については、今年から4歳児の就園が義務化され、就学前教育2年、初・中等教育9年、計11年の義務教育が行われている。

・ジャンマルクス小学校 1クラス15名。小学校では1年生からドイツ語の学習が始まる。2年生の2学期からは、フランス語の学習が加わり、この2つの言語の学習が、小学校の低・中学年の学校教育の中で大きな比重を占めている。教室環境がよく整えられ、施設・設備が充実している。

・リセ工業美術職業学校 ルクセンブルグでは早い時期から能力別教育が行われている。この学校は、中等教育にあたり技術者及び職工の養成を目指す。7年

制で、前3年間は義務教育。この3年間の成績によって、工学・技術・職業のコースに分けられる。職業コースの中には、在学中から週の決められた時間を職業現場に出向き技術を身につけながら勉強するものもある。日本の大学なみの施設・設備を備えており、教育水準の高さを感じた。

＜アメリカ セントルイス市＞

セントルイスでは、グローバルな視野に立つ教育をめざしている。また、最近では pre-school を含めた幼児教育に対する関心が高まっている。

・ルーズベルト高等学校 設立当初はドイツ系の白人が主で中流家庭の子弟が多かったが、現在は黒人やベトナムなどの子弟が多く、生活レベルも低い。今アメリカがかかえている教育の問題点を浮き彫りにしているような学校とのこと。出席率も低く、途中でドロップアウトする生徒も多いようである。生徒の出席を促すため“Be there”と書かれたポスターや標語が教室や廊下に掲示されていた。この高校では特色ある国際関係のプログラムが組まれている。その中の一つ、E. S. I (英語を母国語としない外国人生徒を対象にした授業)を参観した。同じクラスの中で、ベトナム人、ロシア人、ポーランド人など、民族、人種、文化が異なるいろいろな国の子ども達と一緒に勉強している姿が印象に残った。また、このような問題を抱えながらも、生徒一人ひとりの人格を尊重し、その可能性を求めて指導されている同校の先生方の姿に心を打たれた。



▲ルーズベルト高等学校生物の授業

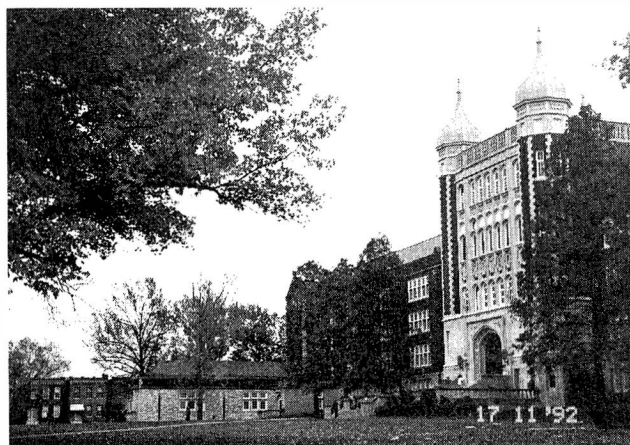
・クラーク小学校 1クラス13~15名。一人ひとりのペースに合わせた個別学習に重点を置いている。また、学力の遅れている生徒は、遅れている教科の強化クラスで勉強するシステムをとっている。理科の授業をしていた1年生の教室では、生徒が8名しかおらず、

他の7名は国語のリーディングクラスに行っているとのことであった。

この学校では、pre-school とkinder-garten が併設されており、初等教育に対する意気込みが感じられた。セントルイスでは、pre-school から進路指導を行っているが、これは職業の適性を見るためではなく、自己尊敬と自己把握が目的である。“自分自身を愛し、自分自身を知ること”，幼いときから自分自身をしっかりと見つめ、個々の存在価値や人間としての生き方を考えさせようとしていることに感心した。

異文化世界に触れ、国際理解についてあらためて考えさせられました。言葉の壁は想像していたよりも大きく、伝えたいことが伝えられないもどかしさにつきまともわれました。自分の考えや意志は言葉を通してこそ相手に伝わることを再認識させられました。

カルチャーショックも大きいものでした。特にイタリアにおいては、石の文化の伝統の重みや絵画彫刻にみられる宗教の影響に圧倒され、それらがまた、現在の人々の生活の中にしっかり生き続けていることに感動しました。文化遺産を大切にしながら近代化を進めている姿勢に、自国の文化をもっと大切にしなければならぬことを学ばされました。



▲クラーク小学校宮殿のような外観の校舎

ルクセンブルグの文部省の方の「ルクセンブルグは小さい国であるがゆえに、アイデンティティをもち、同時に開かれた国でなければならない。」も忘れられない言葉です。

自分自身の意見をもつこと、コミュニケーション手段としての言語能力をもつこと、自国の文化を理解し尊重すること、が国際理解への第一歩ではないかと研修が終わった今、感じさせられています。

学内トピックス ②

☆ クローズ・アップ 富山大学水泳部、応援団（吹奏楽部）☆

第24回富山大学寒中水泳大会

厳寒の1月、学生の熱気の中敢行される!!

—「伝統の重さ」、受け継ぐ学生たち—

去る1月23日（土）前日まで厳冬の雪が降るのを一休みした快晴のこの日、富山大学水泳部活動の一つ、恒例の寒中水泳大会が多くの観衆の見守る中、富山大学第二体育館前プールで開催されました。

この日は、快晴とはいえ季節は冬真ただ中、気温9℃、水温2℃と、寒さ厳しく昨夜からの寒波による冷え込みと放射冷却現象のためか、プール一杯に張られた水の面には氷が薄い層をなし、学生、一般の観衆、及び大学関係職員が見守る中行われました。

この寒中水泳大会は、昭和45年から行われており、回を重ねて今年で24回を迎え、その重い伝統に水泳部員は一生懸命泳ぎ、そして余興も交えてもりあげ、それに対して応援団のリーダー部、チアリーダー部、及び吹奏楽部も熱い声援、演奏を送って大会に花を添えました。

また、同大会は毎年テレビ、新聞等に報じられており、最近では富山大学の名物行事として、県内のみならず全国的に知られるようになり、この日も多くの報道関係者及びカメラマニアなどが取材にきていました。

以下、応援団顧問筒井先生、水泳部主将と応援団（吹奏楽部）に想い及び紹介を述べていただきましたので併せて紹介します。

第24回寒中水泳大会

応援団顧問 筒井 洋一

平成5年1月23日、気温9度、水温2度のもとで、今年も富山大学寒中水泳大会は行なわれた。単に富大行事の一つでなく、テレビを通じ、県内の方々にも広く親しまれる一大イベントとなる本大会も、数えて24回目にあたる。

では、この寒中水泳とは、一体何であるのか。まず、寒中水泳とは「荒行」である。水温2度の水の中に入ると、冷たいのを通り越して、痛みとも何ともいえぬ

感覚が、体中を突き抜ける。しかし、そのプールの中に、意を決して敢然と飛び込む姿は、まさに壮観である。大会参加者は、この「荒行」を通じて、精神を鍛え、今年目標達成への決意を新たに、気合いを入れるのである。といった厳しい面だけが強調される事はなく、富大の寒中水泳には、「エンターテイメント」としての性質も合わせ持つ。県内中のあらゆるTV局がこぞって注目する訳だから、県内中に自分の存在をアピールせんとばかりに、次々と奇抜なパフォーマンスが飛び出す。そんな彼らの明るさが、会場を和ませ、大会を一層盛り上げるのである。

また、寒中水泳とは、後に残るべきよき「伝統」である。端目に見れば、何とおかしな事を、と思われるかもしれない。現に、やっている本人でさえ、何故こんな事を、と思うこともあるという。しかし、その憂いを吹き飛ばす熱い何か、寒中水泳にはある。その何かを感じ取る気持ちが、この大会をよき「伝統」として存在させるのである。

確かに、寒中水泳は大変な「荒行」であるが、その内に、湧き出づる熱い想いを、強く感じ取って欲しい。そして、この大会が今後30、40回と続く事を、切に願うものである。



▲ 厳寒の中泳ぐ水泳部

富山大学体育会水泳部

水泳部主将

富山大学体育会水泳部は部員数40人のうち男27人女13人の水泳に対し、またその他諸々の面に対し意欲あふれんばかりの部員で構成されている。

我々水泳部は水泳の競技レベルの向上を目指し、またその部は人として社会にでも通用するような人間を形成する場として機能している。昨シーズンの部の活動実績は一言でいうと、全国国公立大会男女アベック団体出場したことである。この全国公団団体出場というのは、部としての目標であり、来たるべきシーズンにおいてもこの大会に出場することを目指し、練習に励むということが我々に課せられた当面の目標である。とお難い面を先に記しておきながら、一方その実体は個性豊かな部員の集合体である。昼は、4年から1年まで和気あい合いと談笑したり、遊びに出かけたり、夜は、飲み会で大はしゃぎ、大笑い、大波乱といった具合である。

私は水泳部に入部したことを本当によかったと思っている。なぜなら部にいるときが一番楽しいからである。体育会というだけあって練習は厳しく、縦のつながりを重んじ、上級生からまたOBの方から色々と教育されるわけであるが、それを乗り越えた何かがある。その何かを求め、部員が部に自然と足を運ばせるのである。この伝統ある水泳部が、今後、厳しくもあり、楽しくもあり、また活気のある練習意欲に充ちた者たちの集合体であることを望むばかりである。

最後に、富山大学関係者の方々には、寒中水泳などの行事でこの水泳部の魅力を知っていただき、これからの新入生には、実際に入部してこの魅力を肌で感じていただきたいと思っております。

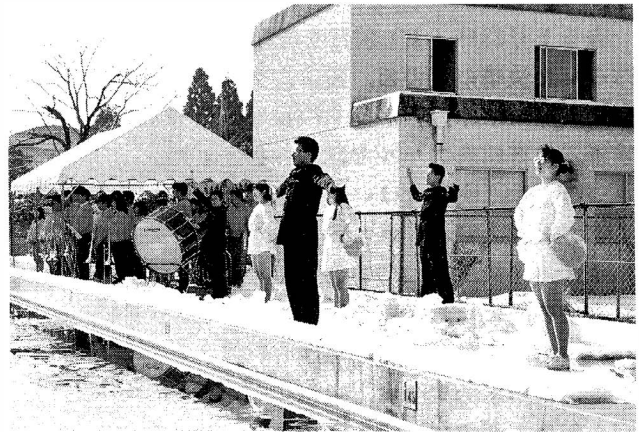
「寒中水泳」

応援団（吹奏楽部）

毎年恒例の寒中水泳大会は、去る1月23日に第一体育館横のプールで行われました。冬の北陸にはめずらしく、青空が広がる天候となりましたが、水面には薄氷が張り、まだまだ冬真最中といった一日でした。我々応援団吹奏楽部は、プールに飛び込む人を応援するべく応援団のリーダー部・チアリーダー部と共に応援を行いました。日頃は練習場所が学内にないため、とかく練習不足になりがちではありますが、寒中水泳大会

当日は、我々なりに精一杯演奏させていただきました。寒中水泳大会に少しでも華をそえることができたのなら、これに勝る喜びはありません。

さて、我々の応援団吹奏楽部の日頃の練習内容は、といいますと、他の吹奏楽団とほとんど同じで、コンクール、演奏会に向けての合奏、及び個人練習等が主な内容といえます。また、応援団としての活動もその中に組み込まれるため、春に北国大会の応援が始まり、冬に定期演奏会が終わるまでかなり多忙な活動状況といえそうです。



先ほど練習場所の事について述べましたが、我々には学内に適当な練習場所がないため、練習のたびに呉羽少年自然の家等に移動して練習を行っています。しかし、部員全員と楽器の運搬には、非常に多くの労力と何台もの車が必要となり、これらは部員にとって、たいへんな負担となっています。けれども、これらの困難を乗り越えて、演奏会等を成功させた時の感動はたとえようがありません。また、我が部は今年から、部員の演奏技術の向上及び部の知名度をアップさせるために、全日本吹奏楽コンクールに出場することにしました。コンクールに出場し、審査員の方々に批評していただくことが、我々にとっての糧になることはまちがいないでしょう。なお、昨年は富山さくらまつりでのパレード演奏、そして高岡市からの依頼による、高岡駅前における「社会を明るくするコンサート」での演奏、また、砺波養護学校や済生会高岡病院における慰問演奏など、地域に根ざした活動も行っています。当面の目標は「全日本吹奏楽コンクール全国大会出場」ですが、「地域の人をはじめ、全ての人に愛されるバンドになる」という最も大きな目標も忘れることなく、部員が一丸となってがんばっていかうと思っております。また、12月12日（日）に県民会館大ホールで行う予定の第12回定期演奏会に、大学関係者各位の皆様方の多数の御来場を心よりお待ち申し上げます。

学内トピックス ③

☆ クローズアップ 富山大学附属小学校ブラスバンド部, 富山大学応援団(吹奏学部) ☆

本学教育学部附属小学校

ブラスバンド部がスプリングコンサート'93で迫力の演奏

本学教育学部附属小学校ブラスバンド部のスプリングコンサート'93が去る2月21日(日)に黒田講堂で開かれました。

当日は3年生から6年生まで45人が出演しました。

コンサートでは、組曲「道化師」をはじめ、「タンホイザー行進曲」「マジック」「カルメン」など8曲を演奏しました。

大人顔負けの迫力ある演奏に、訪れた人は盛大な拍手を送っていました。

また、本学応援団吹奏学部が賛助出演し、「ディズニーメドレー」を披露しました。

以下、宗 孝文 附属小学校長、同部顧問 宮崎先生、また賛助出演した応援団(吹奏学部)に感想をいただきましたので併せて紹介いたします。

附属小学校長 宗 孝文

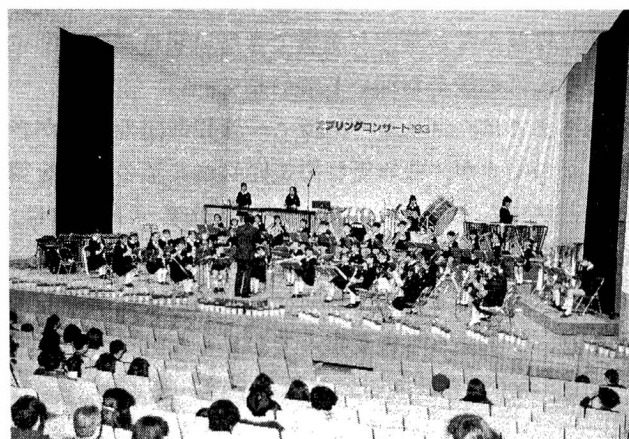
附属小学校ブラスバンド部は、昭和62年、創校110周年の記念事業の一つとして結成され、翌年から全日本吹奏楽コンクールに出場し、毎年入賞の実績を残してきました。

ただ、コンクールなどで感じるのですが、本校ブラスバンドは比較的少人数編成のため、ボリュームの点でやや不足しがちです。また楽器の種類が多いので、顧問の先生方だけの指導では手が回らない分、通常は6年生部員が下級生を指導することになっています。

これはこれで意味があると思いますが、また一方、今回のスプリングコンサートのように、大学の応援団吹奏楽部の皆さんの参加があったことは大変意義深くうれしいことでした。当日にいたるまでの指導の一部も学生の方にお願ひでき、演奏会当日の合同演奏は、大変な迫力で、技術的にもいつもに比べ素晴らしいもの

でした。演奏する子どもたちはもちろん、聴いている子どもたちにもよい刺激になったと思います。また、運営は主として父母があたりますが、大きい楽器や舞台の設営などを学生の方に手伝ってもらえ助かりました。そういう意味で、今回の学生の皆さんの参加は、教育上、指導上、運営上有意義なことでした。

大学生の何人かの方は、実習生としてのかかわりもありましたし、またお互い楽器を融通しあう関係もあったようです。大学の附属ならではのかかわりとして、今後もこのような関係が継続されればと思います。



▲ 熱演するブラスバンド部

附属小学校ブラスバンド部顧問 宮崎先生

スプリングコンサートは、いわゆる6年生のお別れコンサートという形でスタートしました。

第1回目は、本校の多目的ホールで行い、第2回目は市民プラザのアンサンブルホールで、そして、3回目からは黒田講堂で行っています。今年は5回目となりました。

黒田講堂は、同じ学内ということで、格安の料金で

使用することができます。そして、音響的にも非常によく響いてスプリングコンサートに最適のホールだと思っております。ただ、講堂内にひな壇やいす、ピアノなどの設備や備品がないため、小学校から長机やパイプいす、教壇を運び込んでステージをセットしなければなりません。ひな壇やいす、ピアノなどが準備されていれば、もっともっと使いやすくなるのではないのでしょうか。また、音響や照明関係のオペレーターを特別にお願いしなければならないことも、改善されればいいことの一つだと思います。

本校の6年生は、全員が附属中学校の受験をするため、12月から2月上旬まで練習を休みます。受験後にまた練習を再開するため、練習の時間も少なく、このコンサートに向けては、いつも強化練習を行っています。

このコンサートでは、6年生一人一人が必ずソロができるよう配慮しています。そして、5年以下の部員たちに対しては、その6年生の晴れの姿を見させるようにしています。

そこで、今回のように6年生部員の人数が少なかったり、パートのバランスが悪かったりして6年生部員だけではなかなか楽曲が演奏できない場合に、大学生の皆さんに応援をお願いしています。

昨年までは、フィルハーモニー管弦楽団の応援が多かったのですが、今年度は応援団吹奏楽部の応援をすることができました。スプリングコンサートまでに、3回の合同練習を行いました。大学生の皆さんは子供たちに対してとても丁寧に、そして熱心に指導して下さい、子供たちも大変喜んでいました。

「附属小学校ブラスバンド部 スプリングコンサート」

応援団吹奏楽部

初春とはいえ冷たい雨のそば降る2月21日の日曜日、白い黒田講堂にさわやかなサウンドが響きました。私たち応援団吹奏楽部は、附属小学校ブラスバンド部のスプリングコンサートに友情出演として参加させて頂きました。春に卒業していく6年生部員たちの「お別れコンサート」として平成2年より行われているものだそうです。

第1部はコンクールの自由曲に使われた、組曲「道

化師」など、小学生には難曲では、と思われるような曲も演奏しておりましたが、素直でなかなか迫力のある響きに大学生たちもびっくりするほどでした。

第2部では私たちのステージとして「ディズニーメドレー」を演奏しました。ディズニーのアニメ映画に流れる、かわいらしい曲が次々と現れる大変親しみのあるメドレー曲です。演奏会では自分たちのテクニックを見せることも重要ですが、聴衆の方々楽しんで頂くためにも、誰でも知っている曲を演奏することが大切です。これは、これからの私たちの活動においても課題とされることなのですが。

第3部では6年生と大学生の合同演奏で、若者に人気の榎原敬之の唄う「どんなときも」と、ちょっぴりアダルトなラテン曲「オエ・コモ・バ」の2曲をやりました。なかでも「オエ・コモ・バ」では6年生一人一人に8小節間のアドリブソロが与えられたのですが、事前の練習段階で小学校ブラスバンドの顧問の宮崎先生から「大学生さんにソロを創ってもらいます。」と、さらりと言われてしまい、部員一同てんやわんやの状態になってしまいました。たった8小節とはいえ「創る」となると不慣れなもので、なんとか形にはしたもの、小学生に吹いてもらうときは「出来るかな?」「変じゃないかな…」とはらはらし通してました。しかし、これが子供たちの順応力の早さというのでしょうか。本番では私たちの心配もよそに、一人一人のスタンドプレイを見事にこなしてくれました。みんな一生懸命練習したのでしょうか。めだったミスをする子もなく、「あれだけ堂々とソロができれば…」と、私たちの方が考えさせられてしまいました。一番喜んだのは父母の方々でしょう。子供たちの姿を撮ろうと、客席からカメラのフラッシュがひっきりなしに光っていました。

第4部では小学生全員でポップス曲の「マジック」「ヴァイブレーションズ」を、小学生・大学生の合同で、ビゼーの歌劇「カルメン」をポップスアレンジした同名の「カルメン」を演奏しました。このステージになると、小学生たちはかわいらしいおそろいのチェックのシャツにジーンズ、首には赤いバンダナとラフなスタイルで見たくも盛り上げました。曲の方も盛り盛りで、本番前は「こんな曲できるかーっ。」と大学生をも泣かせた「カルメン」を終曲まで一気に吹きとばし、先生方や聴衆を大変楽しませてくれました。客席からのアンコールの声に答え、「もう恋なんてしない」

などを演奏し、コンサートは無事幕を閉じました。

実際に小学生たちと舞台上で演奏するまでは、その練習の厳しさや曲の難易度に疑問を感じたこともありましたが、結局楽しさが感じられなければやっても意味がないことがわかりました。私たちは演奏の楽しさも味わえ、何よりも子供たちとの交流が出来たということをお大変嬉しく思っています。教員養成課程において実習をする学生以外で、あのように大勢の子供たちと接触する機会というのは、そうなかなかあるもの

ではないのです。

我が吹奏楽部は毎年12月に定期演奏会を行っているのですが、より多くの人々に私たちの演奏を楽しんで頂くためにも、他団体との交流を深め活動範囲を広げていくことは重要なことでもあります。子供たちの素直な態度に「初心にかえる」ということの大切さを痛感させられました。このスプリングコンサートでの成果は、私たちの今後の活動のための大きな糧となるはずです。

学 内 規 則

富山大学留学生指導相談室規則の制定

富山大学留学生指導相談室規則の制定理由

外国人留学生の受入れに当たっての教育、調査・研究及び異文化適応・生活・修学相談等の体制を充実するため、留学生指導相談室を設置し、それに必要な所要事項を定める。

富山大学留学生指導相談室規則を次のとおり制定する。

平成5年1月22日

富山大学長 小黒 千足

富山大学留学生指導相談室規則

(設 置)

第1条 富山大学（以下「本学」という。）に、富山大学留学生指導相談室（以下「指導相談室」という。）を置く。

(目 的)

第2条 指導相談室は、本学の外国人留学生（以下「留学生」という。）に対する日本語教育及び修学・生活・異文化適応上の指導等並びにこれに必要な調査・研究を行うとともに、全学的な指導援助体制の体系化、総合化を図り、留学生に対する教育指導の充実発展に寄与することを目的とする。

(業 務)

第3条 指導相談室は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生に対する日本語の課外補講
- (2) 留学生に対する修学・生活・異文化適応上の指導及び情報提供
- (3) 留学生教育に必要な調査研究
- (4) 留学生の地域等との交流の推進及び支援
- (5) 学生の留学、交流のために必要な情報の収集及び資料の提供
- (6) その他指導相談室の目的達成のために必要な業務

(組 織)

第4条 指導相談室は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 指導相談室長
- (2) 日本語・日本事情担当教官

- (3) 留学生専門教育担当教官
(4) 各学部及び教養部から選出された国際交流委員会留学生部会委員
(5) 保健管理センターの教官
(6) その他第7条に定める運営委員会が必要と認める教官
- 2 指導相談室長は、本学教授のうちから第7条に定める運営委員会の推薦に基づき、学長が命ずる。
- 3 第1項第6号に掲げる者は、第7条に定める運営委員会の推薦に基づき、学長が命ずる。
(指導相談室長の任期)
- 第5条 指導相談室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の指導相談室長の任期は、前任者の残任期間とする。
(指導相談室長の職務)
- 第6条 指導相談室長は、指導相談室の業務を総括する。
(運営委員会)
- 第7条 指導相談室の運営に関する事項を審議するため、富山大学留学生指導相談室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
(運営委員会の審議事項)
- 第8条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。
(1) 指導相談室の管理運営に関する重要事項
(2) 指導相談室長の推薦に関すること。
(3) その他指導相談室長が必要と認めた事項
(運営委員会の組織)
- 第9条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
(1) 指導相談室長
(2) 学生部長
(3) 第4条第1項第2号から第6号までに掲げる教官
(4) 学生部次長
(委員長)
- 第10条 運営委員会に、委員長を置き、指導相談室長をもって充てる。
2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
(議 事)
- 第11条 運営委員会は、委員の2分の1以上の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(意見の聴取)

第12条 運営委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。
(庶 務)

第13条 指導相談室及び運営委員会の庶務は、学生部学生課において処理する。
(雑 則)

第14条 この規則に定めるもののほか、指導相談室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成5年1月22日から施行する。

海外渡航者

| 渡航の種類 | 所属 | 職 | 氏名 | 渡航先国 | 目的 | 期間 |
|-------|------|----|-------|-----------------------------|--|------------------------|
| 外国出張 | 理学部 | 教授 | 對馬 勝年 | 中華人民共和国 | 大陸性吹雪に起因する雪害の共同研究 | 5. 1. 1 } 5. 1. 8 |
| | 工学部 | 〃 | 坂井 純一 | アメリカ合衆国 | ・IAUコロキウム#14212. 出席し、研究発表を行う。 ・アイオワ大学物理天文教室の西河謙一博士と日米共同研究の討論を行う | 5. 1. 10 } 5. 1. 24 |
| | 教養部 | 〃 | 鈴木 邦雄 | 〃 | 内部・外部諸形質の適合性に基づくトビハムシ亜科の属の上級分類に関する研究 | 5. 2. 14 } 5. 3. 31 |
| | 経済学部 | 〃 | 藤森 英男 | フィリピン 台 湾 | ・日本経済に関する講義・研究活動 ・台湾経済の研究状況に関する調査及び資料収集 | 5. 1. 3 } 5. 4. 22 |
| | 〃 | 〃 | 滝川 敏明 | アメリカ合衆国 ドイツ、フランス ベルギー | 欧米におけるカルテル事件の審査手法について(入札談合を中心に) | 5. 2. 20 } 5. 3. 7 |
| 海外研修 | 理学部 | 教授 | 広岡 公夫 | アラブ首長国連邦 | ラス・アルハイマーの中世遺跡の考古地磁気試料採集 | 5. 1. 4 } 5. 1. 10 |
| | 教養部 | 〃 | 藤井 昭二 | ロシア | バイカル湖掘削計画の会議に出席 | 5. 2. 17 } 5. 2. 24 |

職員消息

《住所変更》

経済学部

助 教 授 松 井 隆 幸
(比較経済論)

助 教 授 諸 橋 昭 一
(生物プロセス工学)

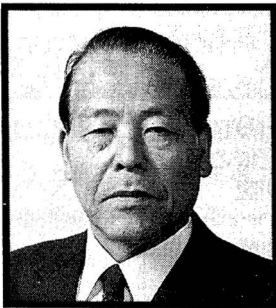
工学部

教 授 坂 井 純 一
(計算機工学)

助 教 授 高 瀬 均
(機能性材料工学)

訃 報

本学名誉教授 山口 政則 氏 逝去



本学名誉教授山口政則氏は、平成5年1月16日、急性心不全のため逝去されました。享年79歳。

同氏は、昭和8年3月鹿児島県第一師範学校を卒業後、新潟第一師範学校助教授等を経て昭和21年9月東京文理科大学を卒業後、同月文部教官に任ぜられ富山師範学校、富山大学教育学部講師、富山大学教育学部助教授等を経て、昭和45年3月富山大学教育学部教授に昇任、その後昭和54年4月停年により退職され、同月富山大学発展に尽力された功績により富山大学名誉教授の称号が授与されました。

その後、昭和54年4月から昭和62年3月まで星陵女子短期大学発展にも寄与され、多年にわたり高等教育に貢献した功績が評価され昭和61年4月勲三等瑞宝章が授与されました。

同氏は終始熱意と温情を持って生徒並びに学生の教育と指導に当たられ、理科教育分野を中心として多くの有能な人材を育成し教育界等へ送り出され、そして今日、各地で見事に花を咲かせています。

同氏の専門領域（生物）においては高山植物ニッコウキスゲと同属平地産ヤブカンゾウとの類縁環境を究明され、その研究成果は学会において氷河時代から平地性植物と高地性植物の類似性について具視している点に著しい注目を集めました。また長期にわたり大豆の交雑実権を試みられ、遺伝学の領域における数々の成果は現在のバイオテクノロジーの基礎となっています。

この間富山大学在職中、全国的に波及した大学紛争に際し、補導協議会委員また教官代表として毅然とした態度を持って大学正常化に努力されました。その後昭和48年3月から2年3ヶ月にわたり評議員、昭和49年4月から昭和53年3月まで教育学部附属小学校長及び附属幼稚園長を併任され、教育養成学部における職責の一端を担われました。

また、附属幼稚園長在職中、幼稚園教育新興のため昭和51年4月富山県国公立幼稚園長会を発足され初代会長に推挙され、同会事業の推進に務められ地域社会へも貢献されました。

ここに、同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- | | | |
|--------|---|--|
| 1月4日 | 第10回部局長懇談会 | 臨時健康診断（寒中水泳） |
| 6日 | 第6回事務組織等検討委員会 第20回新教育課程実施委員会作業部会 | 23日 寒中水泳 |
| 6～11日 | 人事関係事項説明聴取 | 25日 第6回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会 |
| 7日 | 部課長会議 営繕関係経費ヒアリング（学内） 大学入試センター試験監督者説明会 | 第5回自己点検評価委員会管理運営専門委員会 |
| 7～11日 | 在来生合宿研修（於：志賀高原） | 第9回国際交流委員会留学生部会 一般選抜入学願書受付（～2/2まで） |
| 8日 | 第7回教育改革整備委員会組織制度専門委員会 | 26日 第5回自己点検評価委員会教育活動専門委員会 |
| 12日 | 第4回国際交流委員会学术交流部会 | 第6回情報処理センター運営委員会 廃液処理施設自己点検評価委員会 |
| 13日 | 成人式記念品贈呈 第8回国際交流委員会留学生部会 | 26～28日 北陸財務局による共済組合監査 |
| 14日 | 第11回部局長懇談会 リカレント運営委員会 第3回国際交流委員会 | 27日 第14回部局長懇談会 |
| 16～17日 | 大学入試センター試験 | 28日 第7回教育改革整備委員会教育課程等移行専門委員会 |
| 18日 | 第3回教育改革整備委員会 第12回部局長懇談会 | 第5回放射性同位元素総合実験室運営委員会 |
| 19日 | 第10回事務協議会 第3回学寮補導委員会 第8回新教育課程実施委員会 第21回新教育課程実施委員会作業部会 | 第2回放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会 |
| 20日 | 第2回施設整備委員会 人文学部推薦入学者選抜試験 | 第3回保健管理センター運営委員会 |
| 21日 | 第6回教育改革整備委員会教育課程等移行専門委員会 第2回低温液化室自己点検評価委員会 第7回補導協議会 第4回授業料等減免選考委員会 第6回入学試験実施委員会 第6回入学試験委員会 | 第1回保健管理センター自己点検評価委員会 |
| 22日 | 第13回部局長懇談会 第12回評議会 リカレント運営委員会 第8回教育改革整備委員会組織制度専門委員会 会計係長会議 | 29日 第13回評議会 |
| | | 30～31日 スキー講習会（共済組合主催） 外国人留学生と教職員とのスキー交流会（於：極楽坂スキー場） |
| | | 2月1日 第14回評議会 第15回部局長懇談会 部課長会議 第8回補導協議会 |
| | | 2日 東海北陸地区国立学校等施設整備打合せ会（於：名古屋大学） 厚生補導研修会講演会 第22回新教育課程実施委員会作業部会 第3回教務委員会 第9回新教育課程実施委員会 |
| | | 2～9日 平成4年度学内会計監査 |
| | | 3日 第9回教育改革整備委員会組織制度専門委員会 |

- 特別定期健康診断
公務員採用試験に関する講演会
- 4日 大学院設置構想策定に関する研修会
第7回入学試験実施委員会
第7回入学試験委員会
- 5日 第4回教育改革整備委員会
部課長会議
第4回公開講座委員会
- 8日 第6回自己点検評価委員会教育活動専門委員会
第7回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会
第6回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
平成5年度施設整備事業実施計画案調書ヒアリング（於：名古屋工事事務所）
- 9日 国大協第一常置委員会小委員会
第9回補導協議会
- 12日 第15回評議会
第16回部局長懇談会
第5回大学院委員会
第10回教育改革整備委員会組織制度専門委員会
第3回低温液化室運営委員会
- 15～17日 平成4年度文部省経理実態調査
- 16日 平成4年度国立大学学生部長会議（於：東海大学校友会館）
第23回新教育課程実施委員会作業部会
- 17日 水曜会
部課長会議
- 18日 環境保全技術講習会（於：高志会館）
第31回全国厚生補導研究集会第1回運営委員会（於：高志会館）
- 19日 第5回公開講座委員会
第5回新教育課程実施委員会教育改革整備委員会
- 22日 教務委員会・補導協議会合同委員会
- 23日 公開講座主幹課長会議
- 24日 特別定期健康診断
学務関係係長会議
- 25日 前期日程・A日程入学者選抜学力検査
- 26日 第16回評議会
第17回部局長懇談会

- 第10回補導協議会
第1回留学生指導相談室運営委員会

人 文 学 部

- 1月7～17日 大学院人文科学研究科入学願書受付
11日 授業開始
12日 学部教務委員会
13日 教授会
人文科学研究科委員会
教授会（人事）
- 14～18日 推薦入学願書受付
20日 推薦入学学力検査
27日 学部教務委員会
学部補導委員会
- 2月1日 大学院人文科学研究科（修士課程）入学者選抜検査
4日 教授会
教授会（人事）
5日 平成4年度学内会計監査
9日 人文科学研究科教務等検討委員会
10日 人文科学研究科委員会
教授会（人事）
12日 大学院人文科学研究科（修士課程）合格者発表
後学期授業終了
17日 学部教務委員会
教授会
18日 事務連絡会
24日 係長会議

教 育 学 部

- 1月6日 授業再開
附属学校運営委員会
- 7日 附属中学校第3学期始業式
- 8日 附属小学校，附属養護学校第3学期始業式
- 12日 学部カリキュラム委員会
入学者選抜方法検討委員会
附属幼稚園第3学期始業式
- 13日 学部教務委員会
学部自己点検評価委員会
教授会

| | | |
|--------|--|---|
| 18日 | 教育学部候補者選挙委員会 | 係長会議 |
| 18～22日 | 平成5年度附属小学校・附属中学校入学願書の受付 | 13日 学部教務委員会 人事教授会 教授会 |
| 20日 | 大学院設置準備委員会 | 18日 学部施設整備委員会 |
| 21日 | 学部職業補導委員会 | 19日 係長会議 |
| 25日 | 附属学校運営委員会 教育実習委員会 | 学部自己点検評価委員会 |
| 26日 | 学部自己点検評価委員会 | 20日 大学院経済学研究科委員会小委員会 大学院経済学研究科委員会 財務委員会 |
| 28日 | 学部紀要編集委員会 自然観察実習センター自己点検評価委員会 自然観察実習センター運営委員会 附属小学校入学者第1次選考（発育検査） | 25日 学部入学方法検討委員会 |
| 31日 | 附属中学校入学者第1次選考（学力検査） | 27日 学部教務委員会 人事教授会 教授会 学部留学生委員会 |
| 2月2日 | 学部補導委員会 附属小学校入学者第2次選考（抽選） | 29日 学部自己点検評価委員会 |
| 3日 | 学部教務委員会 人事教授会 学内会計監査 | 2月2日 平成4年度学内会計監査 5日 夜間主コース編入学試験 |
| 4日 | 附属中学校入学者第2次選考（抽選） | 8日 大学院経済学研究科委員会小委員会 夜間主コース編入学試験選考委員会 後学期授業終了（経済学部夜間主コース2年生） |
| 8日 | 教育専攻科入学者選抜試験 | 10日 学部教務委員会 人事教授会 教授会 大学院経済学研究科委員会 後学期授業終了（経済学部夜間主コース2年生を除く。） |
| 9日 | 授業終了 大学院設置準備委員会 | 19日 日本海経済研究所運営委員会 |
| 10日 | 学部教務・補導合同委員会 学部教務委員会 教授会 人事教授会 附属養護学校教育実践研究会 | 23日 学部教務委員会 人事教授会 教授会 大学院経済学研究科委員会 係長会議 |
| 12日 | 入学者選抜方法検討委員会 学部予算委員会 教育専攻科合格発表 | 24日 学部教務委員会と学部補導委員会の合同委員会 |
| 16日 | 教育実習委員会 | |
| 24日 | 学部教務・補導合同委員会 教授会 人事教授会 | |

経済学部

- 1月7日 授業再開（経済学部夜間主コース2年生を除く。）
係長会議
- 11日 授業再開（経済学部夜間主コース2年生）
- 12日 各種委員選考委員会

理学部

- 1月6日 学科主任会議
- 7日 学部教務委員会
- 11日 授業開始

- 学部図書委員会
13日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会
理学部長候補者選挙管理委員会
18～22日 大学院理学研究科入学願書受付（2次）
20日 理学部長候補者選挙管理委員会
27日 学部補導委員会
29日 学部図書委員会
2月4～5日 大学院理学研究科（修士課程）入学者選抜
検査（第2次）
5日 平成4年度学内会計監査
10日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会
12日 大学院理学研究科（修士課程）合格者発表
後学期授業終了
17日 学科主任会議
22日 学部教務委員会
23日 教授会
人事教授会
理学研究科委員会専任教授会

工 学 部

- 1月7日 学部拡大教務委員会
13日 教授会
工学研究科委員会
専任教授会
21日 学部拡大教務委員会
22日 係長連絡会
25日 学部施設整備委員会
27日 教授会，選考委員会
28日 学部運営委員会
学部自己点検評価委員会
2月2日 専任教授会
8日 学部教務委員会
8～9日 大学院工学研究科（2次）入学試験
9日 学部運営委員会
学内会計監査
10日 教授会
工学研究科委員会

- 専任教授会
12日 大学院工学研究科（2次）合格発表
15日 学部安全委員会
学部拡大教務委員会
博士課程設置準備委員会
学部教務委員会
補導委員会合同委員会
16日 学部教官要覧編集委員会
文部省経理実態調査
17日 教授会
専任教授会
19日 後期授業終了
24日 学部教官要覧編集委員会
25日 前期日程私費外国人留学生入学試験

教 養 部

- 1月8日 自己点検評価委員会
11日 授業開始
12日 教務委員会
14日 将来計画委員会
20日 教授会
21日 自己点検評価委員会教育活動専門委員会
25日 予算委員会
自己点検評価委員会管理運営専門委員会
自己点検評価委員会研究活動等専門委員会
26日 教務委員会
27日 人事教授会
教授会
2月3日 教務委員会
4日 補導委員会
8日 後学期授業終了
10日 教授会
人事教授会
12日 後学期末試験開始
15日 予算委員会
23日 教務委員会
補導委員会
施設整備委員会
後学期末試験終了
24日 教授会

附属図書館

- 1月19日 係長連絡会
28日 第2回館報「書香」編集委員会
第7回附属図書館商議会
2月4日 平成4年度学内会計監査
8日 係長連絡会
10日 第1回図書館業務専用電子計算機仕様策定委員会
15日 平成4年度文部省経理実態調査
18日 第2回図書館業務専用電子計算機仕様策定委員会（持ち回り）
26日 係長連絡会

保健管理センター

- 1月28日 保健管理センター運営委員会
保健管理センター自己点検評価委員会
2月3日 第3回健康の集い

水素同位体機能研究センター

- 1月6日 第1回水素同位体機能研究センター自己点検評価委員会
26日 第2回水素同位体機能研究センター自己点検評価委員会
28日 R・I教育訓練

地域共同研究センター

- 1月20日 第3回技術セミナー
22日 第4回企業見学と産学交流会（於：太平洋製鋼株式会社富山製造所）
2月2日 企業見学と産学交流会（於：吉田工業(株)）
8日 企業見学と産学交流会（於：立山科学工業(株)）
9日 学内会計監査
15日 地域共同研究センター運営委員会
16日 文部省経理実態調査
企業見学と産学交流会（於：コーセル(株)）
技術研究会材料部会研究発表会

| | |
|-----|--|
| 編 集 | 富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190 |
| 印刷所 | あけぼの企画株式会社 富山市住吉町1丁目5-18 電話 (24) 1755(代) |